

## 細江カトリック教会だより 9月

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

### リントホルスト神父の遺志を

リントホルスト神父さまが8月14日、聖母被昇天の祝日の前日に、東京のロヨラハウスで帰天なさいました。7月7日七夕の日がお誕生日なので、皆おぼえていて、「今日はリント神父さまのお誕生日、97歳におなりだね」と話しあっていました。しかし、いつも夏に弱い神父さまは、今年の異常な猛暑はことのほか厳しかったに違いありません。一月前から何も口にされず、ただ点滴だけで栄養を取っておられましたが、少しずつ弱ってこられ、その日のお昼すぎ、介護の方々に看取られて、静かに亡くなったと聞いています。

神父さまは1920年にオランダでお生まれになり、19歳でイエズス会に入り、31歳で司祭に叙階され、33歳で宣教師として日本に派遣されてこられました。日本での生活の64年間、すべて広島教区の教会で宣教と司牧に尽くされました。その中でも細江教会では、1970年から1981年まで主任司祭と幼稚園園長を勤められ、1999年から2014年までは協力司祭としてお働きになり、合わせて26年を過ごされました。多くの方々が神父さまと出会い、懐かしい思い出をお持ちのことと思います。

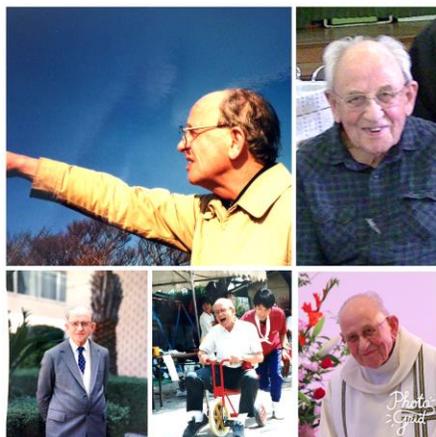
若い頃は自転車やバイクで家庭訪問され、祈りや聖書の勉強会を指導なさ

っていた神父さまも、90歳を越えると少しずつ弱ってこられ、3年前、「神父さまは、教会の仕事はもう十分とおっしゃっているような気がします」と言われました。細江教会での送別会のあと、皆に見送られて東京にいらっしゃったものの、東京には知る人も少なく、ロヨラハウスで過ごされた3年間は、お寂しかったようです。それでも、細江の皆さんからの便りを大切に枕元におき、たまにお見舞いに行く人がいるととても喜んでくださり、細江教会の近況には懐かしそうに耳を傾けておられました。地区での長い間の働きだけでなく、病床の最後の日々にも、祈りと犠牲を地区の教会のために捧げてくださいました。

東京の聖イグナチオ教会で行われた葬儀に

は、私は細江教会を代表して参列しました。斎場で遺骨を胸にいだきながら、少しでもリントホルスト神父さまの生き方にならって、宣教と司牧のために自分にできることを尽くしたい、と思いました。9月2日(土)、山口島根地区の追悼ミサが細江教会で行われますが、神父さまが私たちに与えられたことを、皆で感謝しましょう。そして、神父さまの遺志を継いで、信仰の共同体として成長し、それぞれの家庭と地域の社会に福音をもたらすために、自分に残されている力と機会を使いましょう。

百瀬 文晃 神父



真の宣教師でした！

## リントホルスト神父様の 葬儀・告別式 8/19 (土)



8月19日、聖イグナチオ教会マリア聖堂でリントホルスト神父様の葬儀・告別式が行われました。

イエズス会レンゾ管区長とロヨラハウス館長外川神父様が司式され、山口島根前地区長佐々木神父様が説教をされました。侍者はディン助祭(9月23日司祭に叙階されます)でした。

説教が心にしみました。

神父様は朝、昼、晩と熱心に祈られ、「教会の祈り」は5冊ボロボロになっていたそうです。散歩が好きで、ストライドが長いのでさっさ前に行ってしまう。自分たちがすぐ後ろにいると思って話しかけられるが、まだ日本語教育の制度がなかった時来日された神父様の発音は少し聞きづらく、伝えたい心だけを受け取るということもよくあったそうです。日本語、英語、独逸語など、新聞四紙を取り、一番先に読まれるのは日本語の新聞だったそうです。独学で熱心に日本語に取り組んでおられたのです。

神父様には二つの顔があり、厳しい宣教師の顔と優しい園長先生の顔。遺影は優しく微笑みかけている園長先生の顔ですね。

彼は「歩く宣教師」、近くは自転車、遠くはバイクででかけました。彼こそ「真の宣教師」だった、と強調されました。



告別式で白いカーネーションを神父様の頬の近くにおきました。棺にお花を入れるのを潔しとされなかったことを思い出しながら少し躊躇するところもありました。多くの献花用の花が準備されていたので、ディン助祭から目で促され、再びカーネーションやカスミソウなどの一握りの花を受け取り、「神父様有難うございました」の心を添えて固く合掌されている手のそばにおきました。多分お花のほうがお供をしたかったのではないかという気がふとしました。神父様は花や草や空や山や、自然をこよなく愛しておられました。

細江教会は通算27年間でした。宣教師としての最後をここで全うされました。その後姿を私たちの脳裏に残して東京に行かれました。

日本に来るためにお生まれになったような神父様でした。司祭に叙階されて来日され、広島教区に派遣され、宣教の使命を果たして97歳の生涯を終えられました。

私たちは家族四人ともこの神父様に導かれました。北部地区は度々家庭ミサをたてていただきました。日本が好きだ。いい国だよ、と喜んでくださいました。下関もお好きでした。新米のご飯を「おいしいね」と顔をほころばせて召し上がってくださいました。思い出は尽きません。忘れられない思い出をお持ちの方も多いことでしょう。

リントホルスト神父様本当にお世話になりました、有難うございました。これからもずっと見守ってください。主イエスに賛美と感謝！

合掌 菊野 清一

**認知症講座 7/30(日)****13:30~16:00 教会ホール**

「認知症を学び地域で支えよう」というタイトルの認知症サポーター養成講座でキャラバン・メイト波戸崎みゆ子氏よりお話がありました。「まず、認知症の方のことを温かく見守ることができるように、正しく理解しどう関わればよいか、どのような形で寄り添えるのか知っていただきたい」と、前置きされました。

認知症と診断されても、急激にその人の人格がすべて変わるのではなく、脳が委縮するにつれて症状が進むので、認知症という病気がどのようなものなのか、どのように経過していくのかという正しい知識を持ち、行動することが大事だと言われました。そうすることで本人と周囲の人との穏やかな生活につながるということでした。

一番不安になるのは本人です。まず、おかしいと思ったら病院を受診し(早期受診)、そして正しい診断を受け(早期発見)、適切な治療を受ける(早期治療)、早め早めに準備をして、心に余裕を持つことがとても大事だということです。

また、日々の生活の中で認知症の予防の一つとして、脳の活性化のために笑うことがとても良いということでした。笑うことは、ドーパミンがたくさん出て脳の刺激にとっても有効のようです。適切な運動も大切と講座の中で歌謡曲に合わせて体操をしました。体を動かすと頭も体もすっきりしました。

この講座の終わりに、認知症サポーターとしてオレンジ色のサポーターリングをいただきました。このリングを腕にはめ、街中で困っている認知症の方を見かけたら、正面からゆっくりと声をかけたり、ゆっくりと話を聞く姿勢でサポートしましょうとのことでした。

周囲の人が認知症という病気になった人の心を理解することは容易ではありませんが、温かく見守ってあげ適切な援助がなされればと思いました。たくさんの実例をお聞きしたり、会場からの質問に適切なアドバイスをいただき、参加者36名実りある一日でした。

岸下 邦子

**上智大学によるSTP開催****7/31~8/5**

本年度も上智大学によるSTP(サマー・ティーチング・プログラム)が天使幼稚園や教会ホールを使用して開催されました。上智大学の学生リーダー18名の方々が43名(小4~中3)の生徒さんをそれぞれグループ分けして、楽しそうに語学の勉強をされていました。

8月5日にサブリーダーの結城昌代様(岩国出身東京育ち)にお話しを伺いました。今年の生徒たちはとても積極的で好奇心にあふれた生徒で、用意した教科書やプリントをまたたくまにマスターするなどびっくりされたそうです。語学の発音など、のみ込みも早く、非常に興味をもっているそうです。将来が楽しみな生徒たちばかりでしたと話されました。

また、今年の猛暑にリーダーたちも大変気を配られ、初日・二日目にはバデ気味の生徒さんもいたそうで、熱中症に注意されたそうです。東京よりも暑いと言いながら汗を拭いておられました。例年のおり教会信徒会よりスイカを差し入れ、最終日に生徒たちと一緒にいただく予定とのこと、信徒の皆様にくれぐれもよろしくお伝えくださいと伝言を託されました。無事に閉講されるようお祈りいたしました。

大住 昭夫



## 『平和の祈り集い』8/6(日)

ザビエル上陸記念碑前 18:00

台風接近のため風が強く曇り空で、現地での開催が危ぶまれましたが、無事に唐戸の記念碑前で「平和の祈り」が行われました。

暁の星幼稚園児の献花と歌声、そして『原爆慰霊者と核兵器廃絶』『中東の平和・イスラムとの和解』『子どもたちの未来』の意向で祈りを捧げました。



\*暁の星幼稚園児たち、ありがとう！

百瀬神父さまの聖書朗読の後にお話。「被造物は共にうめき、産みの苦しみを味わっています。世界も人間も、その人間を取り巻くこの環境も、暴力や戦争によって傷つき、災害と人間の欲望によってもたらす乱用に傷ついています。・・・現代世界は他国への核の脅威と脅しを用いて、軍事大国は核兵器を抑止力として開発しています。これは、悪の力の陰謀に他ならない。カトリック教会では、一貫して『他国を武力で脅して、それが自分たちの安全を守る』という考えに反対しています。・・・日本においても、人々の心、平和への心と人類への愛があれば、さらにあの福島での悲惨な教訓からでも学んだのではないのでしょうか。

フランシスコ・ザビエルは1550年この地に上陸し、想像を絶する労苦で、日本各地に布教をもたらしてくれました。・・・私たちキリスト者は神の創造の業を信じ、人類と世界の赦しを待ち望んでいる。この世界のいろいろな現



実が、どれほどの苦しみに満ちていても、私たちはあきらめていない。主イエス・キリストをとおして、神さまが世界の癒しと救いを約束しているからです」

「神さまの喜んでくださることをしましょう。平和は、私たち一人ひとりの心の中に大きくなって、周り人に伝わり、社会全体に渡って実現します」

お言葉ひとつひとつが、胸にぐぐときて、素直にうなずいた方々もいらっしやるでしょう。私たちは深く考え直し、祈りを通していかに行動できるのか、良い機会になったと思います。

私たちを平和の道具としてお使いください。

ザビエル上陸記念碑管理委員  
近藤 克美

## 馬関祭 愛の広場 8/19(土)

突き刺さるような暑い日差しを浴びながら、下関ブロック三教会が一丸となって、唐戸で出店しました。

今年は、若い青年、学生たちと一緒に楽しい嬉しい時となりました。

名のおおり、愛のおこないとカトリック教会のPR??頑張りました～。売上金は全額愛の広場実行委員会へ。皆さま、お疲れさま！感謝！



\*炭の炎と汗まみれの細江教会有志たち。

## おことわり

地区だよりは、次回にさせていただきます。ご了承ください。